

ゲーテ大学（ドイツ）

日没の時間が21時30分ごろになったおかげで活動時間が大幅に長くなりました。日没までの2-3時間は友人とよくメイン川沿いへ散歩に行くことが多いです。子連れの鴨が散歩をしていたり、人々が川沿いで飲んだりピクニックをしているのを見ると夏が本格的にくるのだなと実感します。授業後はキャンパスと寮の間にある公園で友人とピクニックや日光浴をして、太陽の恩恵を全身で受けています。

一方で、日本の夏とは違ってとても湿度がとても低く乾燥に悩まされています。ジメジメとした暑さがないだけまだましですが、部屋の湿度の調整や全身の保湿などに気を付けながら生活しています。

イトヴェシュ・ローランド大学（ハンガリー）

春学期に私が履修したのは以下の4講義です。

・ Fundamentals of Human Resource Management（3単位）

職場におけるHRM（Human Resource Management）の基本的な仕組みや方法を学ぶ。これらを学ぶことで組織内での人材の管理方法についての実践的な知識、スキルの習得を目指す。

・ Negotiation（3単位）

交渉を成功させるための基本的背景（交渉の戦略と心理学的な観点）や交渉構造のモデルを学ぶ。講義内では実際にグループワークを通じて学生の交渉力を向上させることを目指す。

・ Introduction to Cultural Anthropology（3単位）

文化人類学の定義や具体的なアプローチ方法、および理論を理解することを目的としている。また講義を通じて異文化に対する感受性を養うことで、世界の文化の多様性を認識し、それらを理解することを目指す。

・ Persuasion（3単位）

説得力のあるコミュニケーションについて理解し、それを習得することを目的としている。説得に用いられる古典的および現代的なツールに焦点を当て、その技法や言葉遣い、日常生活における応用の仕方などを学ぶ。

ナバラ大学（スペイン）

今期は、スペイン語B1とスペイン語文法、社会学、ワインの講義を取っていました。社会学以外のテストは4月中に終了していたので、5月の期末テスト期間は1つだけテストを受けました。内容は、社会学の研究手法やその名称、事例、人物などについての説明などでした。1学期分の復習をする必要があったので最初は途方に暮れていましたが、受けるテストが1つだけだったので集中してテスト勉強ができたと思います。友達とわからないところを確認し合いながらテスト勉強を進め、学習内容をうまく定着させることができました。テスト当日は少し緊張しましたが、なんとかできたと思います。

最後の授業だと思うと切ない気持ちになりました。約9ヶ月間、最初は慣れない英語での授業に苦戦しながら、友達と協力し合い、なんとか乗り越えることができました。特にスペイン語の授業は、スペイン語に長い時間触れながら様々な国のアクセントを聞き、スペイン語力を向上させることができました。まだ全てを完璧に聞き取り、会話することは難しいですが、勉強を続けていきたいと思っています。

淑明女子大学校（韓国）

・URINK フェアウェルパーティー

淑明女子大学校の留学生交流サークルの名前がURINKなのですが、先日URINK主催のフェアウェルパーティーがありました。私は2学期目だったので、今学期は彼らの助けを借りることも少なかったのですが、特に韓国に来たばかりの時は、入国時に気を付けること、学校の施設の使い方、外国人登録証の申請方法などについて、バディに教えてもらい、たくさん助けてもらいました。他の学校に留学した経験が無いので何とも言えませんが、周りの学生の話をしている限りでは、この学校の留学生サポートはとても充実しているようです。バディとの関係性ができた事のみならず、URINK主催のたくさんのアクティビティのおかげで、韓国生活を満喫することができました。

ベネチア大学（イタリア）

とうとう明日寮を退去します。夕飯をキッチンで作っているとありがたいことに私がそろそろ退去ということを知ってくれた人たちが声をかけてくれました。その流れで最後の夕飯は、日本、ドイツ、台湾、オランダ出身の寮生で囲んで食べました。会話の内容は、髪を染めるなら何色が良いとか、ドイツ語とオランダ語は似てるけどオランダ語は可愛く聞こえてドイツ語は強く聞こえること、日本の駅弁のことなどを話しました。使わなくなった調味料や材料を整理していると、結構日本の物が余っていました。最後の方に使いたくても使えなかったら困ると思って節約していたけど、最後の方はむしろイタリアの食材を使いたくなるので初めから思い切って使っておけば良かったです。

ヤゲウォー大学（ポーランド）

ポーランドに来てから、2か月経ったくらいからこちらにオフィスを置く、コンサルティング会社でインターンシップをしていました。理由としては、授業を集中して受けるために3つのクラスを履修したところ想像していたよりも時間ができたこと。また、その時間を旅行にあてるには、時間があまりすぎたことがあります。留学先でインターンシップもこの先できないだろうと思ったのも理由の一つです。

約半年続けてみて、やはりインターンシップをしてよかったと思いました。活動を通して、ポーランドについて講義とは違った視点で学ぶことが多く、かけがえのない時間になりました。また、インターンシップ先の会社が行っているウクライナ支援のボランティアにも参加し、ウクライナ避難民の方々と交流することもできました。みなさん優しく、社員の方がこれまで誠実に関係を築いてきたことを実感しました。

私個人としては、ボランティアという意識はなく、ウクライナの方々に会いたいから、毎週参加しています。私自身、こちらでの生活で大変なことも多く、気分が落ち込むこともあります。ウクライナの方々が温かい人柄に元気づけられるためです。クラクフに来た当初は、隣国で本当に戦争が起こっているのかと思うほど、避難民の方の姿はあまり見えませんでした。しかし、ボランティアを通して、直接ウクライナの人々と関わることで、その人たちの生活を学ぶことができました。また、日本からも募金が行っていましたが、募金が何に使用されるのか、募金しかできないことにジレンマを感じていたため、微力でありながらも関わることでうれしく思います。